

【第2号議案 令和2年度運営方針】

昨年末に中国の湖北省武漢市で発生した新しい感染症の芽が、昨年末から新年早々に市内で広まっていたが、その情報が隠蔽されたため初動が遅れ、感染が急拡大し、発生源の武漢市が1月23日に都市封鎖が行われた。既に100万人以上にのぼる多くの人々が春節の休暇で世界に出ており、感染は2月には中国国内および中国に近いと言われるイタリア・イラン・韓国で急速に広がった。3月にはイタリアと隣国のフランスから欧米全体に感染が拡大し、3月12日にWHOがパンデミック宣言を行った。感染はさらに拡大し、欧米の大都市、イタリアのミラノ、フランスのパリ、イギリスのロンドン、アメリカのニューヨークなどがロックダウンされ、一部に医療崩壊が起こり、死者が続発してまさに戦争状態になった。

この新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）は既に世界に蔓延し、南アジア（インド等）、アフリカ（エジプト、南アフリカ等）、南米（ブラジル等）、ロシアなどにも感染を広げ、感染者・死者の数を拡大し続けている。新型コロナが収まるのは、半分近くの人が感染して集団免疫ができるか、ワクチンが開発されて多くの人に摂取されてからと見られており、少なくとも来年2021年中頃までの更に1年近くの時間が必要とされている。この影響は、リーマンショックを超えて、戦後最大の大災害になろうとしており、新型コロナ後の世界がどのようなのか、今から様々な予想がなされている。

予定されていたオリンピック・パラリンピックが来年に延期され、様々なイベントが延期されている中で、企業活動にも制限が出ており、当協会としても今年度の諸事業は、新型コロナ禍に左右されざるを得ない状況にある。その中で、セミナーや勉強会などの50人程度までの比較的小規模の集会については、ネットで行うことを考えている。一方で、工場見学などの実施が難しい事業もある。これらのことを踏まえて、新年度の事業展開を進めていくことを考えている。

新型コロナ騒動が起こって以来、日本の社会全体に大きな変化が出てきている。包装関係では、焼きたてのパンや作り立ての惣菜類など全ての食品が、薄手のPPフィルムで包装されるようになった。これも感染の拡大を防ぐためであろう。現在、コンビニで売られているパン、サンドイッチ、お握り、弁当・総菜などは、全てプラスチックで包装され、簡便性が付与されている。また、料理店やレストランのテイクアウトの弁当類も少しずつ増えているが、全てプラ容器に入れられ、持ち運びやすいようにレジ袋に入れられている。このように、プラスチック包材のメリットを一番活用しているのは日本であり、液体調味料などにハイバリアーペットボトルが使われ、軽量化などで、そのメリットが広く生かされている。

また、新型コロナの感染拡大にあって、感染者と医療スタッフを遮蔽するためのマスク、フェイスガード、防護服、手袋、ガウン、遮蔽シートなどは全て使い捨てのプラスチック製である。これらの製品はプラスチック以外の資材の利用はなかなか考えられない。かつては、ガラス製の注射器が金属容器で煮沸消毒して使われていたが、これもプラスチック製の使い捨て注射器になり、無菌性を保持するために薄いフィルムで個包装されて、使い勝手が格段に良くなっている。

食品包装用のプラスチック包材は、石油総量の約1%であり、量的にみても資源問題ではなく、廃棄物処理の問題である。それを踏まえてプラスチックの重要な役割を考え、日本が50年以上に亘って積み上げてきた分別回収システムをさらに効率化するとともに、広くアジアの国々に普及させ、海洋プラ問題を解決していくことは、これからの重要な環境問題と考えられる。昨年のG20における宣言は、「海洋プラ問題のイニシアは日本が採る」との宣言は、日本に期待される重要課題であろう。

また、一昨年の食品包装シンポジウムでは「脱ガラパゴス化への挑戦」を取り上げ、内容的に素晴らしいシンポジウムになった。日本の食品包装技術では、数多くの機能性包材が開発され、国内では広く活用されているが、日本発のアクティブ包材でさえ、世界のデファクトスタンダードにはなっていないのが現状である。これからは、食品包装における日本発のデファクトスタンダードを構築し、食品輸出のツールとして広く活用されるようにしていく必要がある。そのためには、機能性包材の性能を標準化し、認証・推奨していくシステムを構築する必要がある。これについては、会員向けのサービスに限定しているが、昨年度既にスタートさせている。

さらに、経産省がリードしているコンビニ製品のスマート包装化は、IC タグの低価格化により視野に入ってきている。コンビニ・スーパー等における自動棚卸し、セルフレジ、自動支払い、万引き防止、古い商品の割引販売などを目的としており、割引販売は食品ロスの削減にも貢献するものと期待される。昨年は、食品ロスを削減するための法律が作られ、包装改善等により包装食品のロングライフ化が図られ、機能性包材が効果的に使われるようになってきている。

アクティブ包装の分野では、脱酸素や抗菌、アクティブバリアーなどの技術は日本発のものであり、3年前にはオランダで、2年前と昨年は中国の上海で、日本のアクティブ包装技術の現状を報告し、今もアクティブ包装の分野では日本が世界の最先端であることが実感された。今年のAIIAは中止になってしまったが、これからますます発展する分野であると考えられるので、会員諸氏の参加が期待される。

今年6月に実施に移される食品用プラスチック包装容器のポジティブリスト(PL)制度によって認可されたアクティブ包装技術として広く世界に普及させ、食品をロングライフ化させ、世界的に食品ロスを削減していくことに貢献することが期待される。機能性包装による食品のロングライフ化は「食品を無駄にしない」「災害時に備える」といった視点や、「いつでもどこでも利用できる」という簡便性の視点からも非常に重要な技術であり、消費者・流通業者等に「包装の価値」をしっかりと理解し、評価して貰う必要がある。これには広報の視点も非常に重要である。

さらに、本年6月から、食品製造における HACCP が義務化され、食品用プラスチック包材のポジティブリスト化が始まる。これら新制度の具体的な内容についてはまだ検討の途上であり、法制度の移行期間を含めて、実施に移されるので、引き続き注視していきたい。

食品品質保持研究会、日本包装機械工業会とのコラボでは、当方の行事にも多くの方々に参加を頂き、当協会からも様々な事業に参加させて頂いている。今後とも、相互の協力関係を深めていく必要がある。

日本食品包装協会の主題である「食品包装」は、日本の食を支える「食品産業」と、食品にとって不可欠な包装資材と包装機械を提供する「包装産業」とのマッチングで支えられている。当協会は、食品包装に関する様々な情報を提供するとともに、「様々な災害に備えたロングライフ食品の開発」や「輸出振興に役立つ包装」「食品ロスの削減」「スマート包装」「機能性包装」などに関する情報提供にも力を注いでいきたい。

日本の食を支える「食品産業」とそれを支える「包装産業」は、規模も就業人口も大きく、極めて学際的・業際的な分野であり、非常に奥の深い大きな産業分野になっています。特に「包装産業」は、私達の日常生活に欠かすことのできない食糧・食品・農産物等を安定的に供給する重要な産業になっています。これらの食料供給システムの円滑化に貢献すべく、引き続き関連情報の発信に努めて参ります。そのためにも、ホームページのコンテンツや会報を充実させ、会員の皆様へのサービスに努め、ご要望をお聞きしつつ、また、新型コロナ禍を克服しつつ、本年度も事業活動の推進を図って参りますので、宜しくご支援の程お願い申し上げます。

【第2号議案 令和2年度事業計画】

<添付資料3 参照>

- ・シンポジウム開催時期；10月22日（木）確定（終息状況を判断し、ネット開催も視野に入れて対応）
- ・人材育成研修「初級」は各社とも新人研修が終わり新部署への配置のタイミングに合わせて昨年同様9月開催とし、9.11（水）、9.18（水）、9.25（水）確定（ネット開催も視野に入れて対応）
「中級」は12月開催予定
- ・食品包装検定「初級」は第7回を8月に実施予定（開催方式を検討）
- ・会員限定展示交流会（第3回目）；（Web開催方式を検討）

添付資料3

令和2年度 事業計画予定表(見直し案)

	会報発行	事業・行事内容	備考
令和2年度	4月	No166号 ホームページ掲載 第一回定例理事会(4/10(金)) (メール審議) 4月度研究例会(4/21(火))中止措置	第一回運営委員会 (メール審議)
	5月	 令和2年度定時総会(5/14(木)) 第1回見学会(5/—) 3月度勉強会振替(5/22(金))⇒再延期(12/22(火))	於日本印刷会館
	6月	定時総会(電磁的決済) 第1回見学会(6/—) 食品包装技術セミナー・前期(6/25(木))中止措置	第二回運営委員会 (6/5)
	7月	No167号 ホームページ掲載 食品包装技術セミナー(後期) 振替セミナー(7/16(木))再延期	
	8月	食品包装検定試験・初級・第七回 延期措置	第三回運営委員会 (8/7)
	9月	食品包装人材育成研修[初級] (9/9(水))、(9/16(水))、(9/24(木)) Web開催検討;受講料40,000円⇒36,000円	
	10月	No168号 ホームページ掲載 見学会中止 第54回食品包装シンポジウム(10/22(火))	第四回運営委員会 (10/2)
	11月	食品包装人材育成研修[初級](振替開催?) Next-Package2020 第三回 展示会 中止措置、Web開催検討	
2020年	12月	食品包装人材育成研修[中級] 懇親会なし;40,000円⇒36,000円 第二回定例理事会 3月度勉強会振替(12/22(火))	第五回運営委員会 (12/4)
	1月	No169号 ホームページ掲載 包装界合同賀詞交歓会 1月度研究例会	
	2月	食品包装技術セミナー(2/)	第六回運営委員会 (2/5)
	3月	第2回勉強会(3/)	